

ファンがつくる 金沢競馬をもっと楽しむ情報誌

遊駿^{plus}

協力: 金沢ホースマンクラブ
協賛: 金沢競馬振興協議会
発行者: 遊駿プラス編集部

無料

ご自由にお持ちください

www.kanazawakeiba.com

十月四日(火)

第四十二回 白山大賞典 (JpnIII)

金沢で食べたい!競馬場グルメ

うちの仔カフェ

出張ウマフリ

かた豆腐を食べながら

緒方きしん

2022年9月

vol. **49**

※ご意見、ご感想をお寄せください
宛先 E-Mail: yushun.plus@gmail.com
<http://sites.google.com/site/yushunplus/>

2021年 白山大賞典 振り返り

JBC開催を約一か月後に控えたこの年の白山大賞典。

中央からは昨年の同レース優勝馬で重賞三勝馬のマスターフェンサー、同じく重賞三勝で昨年同レース三着のスワーヴアラミス、重賞馬ヴェンジェンスにメイシヨウカズサ、そして悲願の初重賞を狙う昨年四着、元金沢所属のヒストリーメイカーと、新旧のダート勢が揃った。

他場からはダートグレードで中央勢と互角以上に渡り合う船橋の雄ミューチャリーがJBCを見据えて金沢の名手吉原を背に登場。愛知からはマイネルキラメキ、メイシヨウオオゼキの二頭、地元からはティモシーブルー、トップロイヤル、二



ミューチャリー

マルサンデー、エイシンレーザの四頭が名乗りを上げ、十二頭フルゲートで行われた。



メイシヨウカズサ

当日は水路も溢れる大雨で、馬場にな水が浮かぶほどの不良馬場、そんな中でのスタート。

確固たる逃げ馬がない中で先頭に躍り出たのが川田将雅騎乗のメイシヨウカズサ。そこにスワーヴアラミス、ヒストリーメイカー、マスターフェンサーが追走。ミューチャリーは先団に取りつく中団でレースを進める。

一周目のスタンド前でもメイシヨウカズサがすいすいと先頭を進み、中央勢三頭が追走してそれをさらにミューチャリーが追いかける展開は変わらず。しかし向こう正面に入っ

てレースが動き出す。中団で前を伺っていたミューチャリーが吉原騎手に促されて早めに前

へと進出を開始。南関の舞台で強烈な末脚を見せていた彼を考えると、やや早めか。そこへ他の中央勢とともに前を行くメイシヨウカズサに襲い掛かる。そんな中、相変わらずメイシヨウカズサは水かきでもついているのかと思うくらいに不良馬場をすいすい進む。

最終コーナーを回る辺りでは、二、三馬身のリードをつけてメイシヨウカズサが先頭を行く。ヒストリーメイカーが脱落して中央三頭とミューチャリーの激しい二位争いが直線で繰り広げられるが、ここでもメイシヨウカズサとの差は縮まらず、そのまま三馬身差をつけたメイシヨウカズサがゴールイン。堂々の重賞二勝目をレコードタイムで果たすことができた。



メイシヨウカズサ

Photo by naruka

大混戦の二着には、上がり最速の脚を見せたミューチャリーが首差で

スワーヴアラミスを差し切って入り、一番人気マスターフェンサーは四着に敗れた。

今年も中央勢が優勝してこれで白山大賞典は一九九七年に交流重賞となつて以来、二〇〇七年を除いて中央勢の二四勝となった。

しかし、この一か月後。金沢二一〇〇mと言う同じ舞台で行われたJBCクラシックでは吉原騎手の



観客は抽選での入場となり、本来の歓声とは程遠いであろうが、しかし大きな歓声と全国的な注目が集まったJBCから間もなく一年。

JBCが終わると再び金沢競馬はいつものやや静かな競馬場へ戻って行った。前回のJBCの後と同じような流れになつていくのかな、そう感じていた。

しかし今年、夏ごろから少し違つた兆しが見える。

八月開催の第一レースの三連単が払戻率八〇％に引き上げられる「プレミアム・ワン」、金沢競馬のジョッキーが出演してトークを繰り広げるYouTube配信「金沢競馬モーニングジョッキー・プレミアム」と立て続けに企画をスタート。

他場の企画の後追いのような気もしたが、今までそう言った動きをし

手綱の元、ミューチャリーがこの時の経験を生かすような走りを見せて優勝。地方所属馬として史上初めてJBCクラシックを制し、地方勢の連敗を二〇で止めた。

この偉業もあつて、二〇二一年の白山大賞典はとても意義深いレースとなつたのは違いない。後はクラシックで止まった地方勢の連敗を引き続き止められるかどうか。そこも注目したい。

ていなかっただけに「どうした急に」と驚いた。

さらに、八月二十三日のイヌワシ賞にはテレビや雑誌で競馬ファンに人気の、また最近「ウマ娘プリティーダービー」にも出演した元中央ジョッキー細江純子さんがパドック解説と表彰式プレゼンターを務め、人気ユーチューバーのシヨコ壱番屋さんが収録で来場とイベントが立て続けに行われた。

さらにさらに、九月十九日の敬老の日には八歳以上の馬限定の「祝！敬老の日 敬馬賞」と言う企画レースの開催があり、主催者側の白山大賞典前に話題を作ろうと言う気概がよく見える。

コロナ禍で大規模な集客イベントが難しい中でネット等での話題作りを力を入れる事はファンにとっても嬉しい事。白山大賞典が終わった後も息切れせずに「いいぞ、もっとやれ」と応援を送りたい。

金沢で食べた！ 競馬場グルメ



コーヒー、サンドイッチ

うちの仔カフェ

お好み焼きと焼きそばのペアで行列ができる軽食堂街の「たこ勝」。そのお隣に今年新たな飲食店が誕生した。

その名も「うちの仔カフェ」。ありそうでなかったカフェスタイルのお店である。



店内はカウンターとテーブル席のある小洒落たカフェ。しかし、よく見ると壁には九〇年代に渡辺壮騎手とのコンビで中日杯を制覇したサリュウスキーの写真や、様々な馬の飾りなどがあって、店主の馬好き、金沢競馬好きが溢れんばかりに出ている。中央地方を問わず競馬に関する



サリュウスキーの写真も

るトークが良く盛り上がる。

うちの仔カフェの一押しは手作りのサンドイッチとおにぎり。開店直後には棚にぎっしりと入っているがお昼時を過ぎると空っぽという事がしばしば。店内でゆったりと食べられるがテイクアウトもできるので早めに確保する方がいいかも。

メニューは随時変更、季節によって追加されたりするそう。前に来た時には無かったメニューもあれば、逆に消えている事もあるので、気になったメニューは食べておこう。お



テイクアウトもできます

店に行く度に要チェックだ。

夏期はそうめんが登場。カップに入った状態でテイクアウトできて大好評だった。しかし、お店に井の用意がないのに牛丼を始めたり（カレー皿で提供したとか）、初夏の暑くなる頃にグラタンが登場したり（あまり売れなかつたそう）と他では余り見ないロックなメニュー展開が見られるので目が離せない。



メニューは一期一会...

お店の客層は老若男女問わず様々。また競馬場の常連から初めてかそれに近い方とこちらも様々。色々な方が気軽に立ち寄り、気軽に喋りをしながら競馬場のひと時を楽しめる。また、店内の馬の飾りもじわりじわりと増えていくそうなので（まだ色々隠している）、来店の度にその辺りも楽しめそう。うちの仔カフェがみんなの「うちの仔」となるよう日もそう遠くない。そう思えるようなほっとする場所になっていくだろう。



アイアムレジェンド、連覇達成

イヌワシ賞

九月二三日。白山大賞典トライアの全国交流重賞、イヌワシ賞が両馬場で行われた。

全国交流の舞台なのだが今年の出走馬は大井から二頭、浦和、川崎、愛知、そして地元金沢から一頭ずつの計六頭とかなり寂しい頭数だった。

ゲートが開くと、昨年と同じく吉原騎手が手綱を握るアイアムレジェンドがウインハイラントと一緒に先頭を進むも、次第にアイアムレジェンドの逃げになる。しかしながら少頭数もあって馬群は縦長にならずほぼ一塊のまま一周目のスタン

ド前へ。レースが動くのは二周目の向こう正面手前。馬群を引き連れて逃げて



アイアムレジェンド

Photo by MWA

いたアイアムレジェンドがすーっと後続を引き離しにかり、四、五馬身ほど開いた単騎逃げとなる。最終コーナーに差しかるあたりで少しは差が縮まるが、しかし名手吉原の逃げの真骨頂。最後の直線で最後の脚を引き出して追ってくるジュランビル、テルペリオンを引き離し、四馬身の決定的な差をつけて連覇達成。

三着には最後にハナ差差し届いたタカジョー。テルペリオンは四着に終わった。

アイアムレジェンドは昨年のイヌワシ賞以来丸一年ぶりの勝利。今年に入って結果が出なかつた鬱憤を晴らした。

昨年、このレースを勝つても本番の白山大賞典は出走できなかった。今年こそは大舞台に出てくるか注目。そして、地元の大舞台で絶妙の好騎乗を見せ続ける吉原騎手の手綱さばきにも注目していきたい。

なお、表彰式ではゲストプレゼンターとして中央競馬の元騎手で競馬評論家の細江純子さんの、幼馴染と言うズンコママが登場。イヌワシ賞に花を添えた。



Photo by MWA



かた豆腐を食べながら

緒方きしん

今年、サラブレッド大賞典を見るため金沢を訪れた。その際、当然のように地元の居酒屋に行くわけだが、メニューに「かた豆腐」というものがあつた。

店員さんに尋ねると「かたい豆腐です」とのこと。それはそうだろうと思いつつ、注文した。醤油皿とともに出てきた「かた豆腐」はスライスされていて、刺身のように醤油につけて食べていった。店員さんは「縄で縛れるほどかたいんです」と教えてくれる。

そして「白山の名産品なんです」と付け足した。

お恥ずかしい話、そこで初めて私の中で「白山大賞典」が「白山」大賞典に変化したと思う。この記事を読んでもうださっている方はおそらく金沢競馬を愛する方々であり、多くは金沢を愛する方々であろう。つまり「白山」と聞けば白山を連想する方ばかりのはずだ。

北海道出身の私が札幌開催で手稲山特別と聞けば「ていねっていいね!」という言葉や、今はもうない手稲オリンピアという遊園地までを

連想するくらいに「白山」で自然と連想するものがあるのだろう。「もつとレース名に詳しくなってみたいな」と、お酒にびつたりの「かた豆腐」を食べすすめながら、感慨深くなつた。

以前、マスターフェンサーとともにアメリカに渡り、ケンタッキーダービーなどに挑戦した高野容輔助手にお話を伺つたことがある。

高野さんといえば、騎手時代にはメルシーモンサンで中山GJを、トーホウシャインでマーメイドSを制した実績を持つことでも知られている。

高野さんと共に渡米したマスターフェンサーは、二〇一九年のケンタッキーダービーで六着、ベルモンTSで五着など、大いに夢と可能性を感じさせてくれた馬だつた。二年

後にはBCフリー&メアターフとBCデイスターフを日本馬が勝利するのだが、その布石とも言える遠征だつたと思う。

マスターフェンサーは現地でも非常にあたたかく迎え入れられたらしく、陣営にとっては次なる遠征の機会に向けて手応えを感じるものになつたらしい。マスターフェンサーはデビュー当初は非常に硬さのある馬だつたというが、それを少しずつ粘り強く修正していったことで、ダートの本場での好走に繋がつた。

そんなマスターフェンサーだが、帰国後はしばらく条件戦を走つていた。ようやく交流重賞に出られたのは四歳夏のマーキュリーC。そこを制すると、続く遠征先として金沢・白山大賞典が選ばれた。

レースでは吉原寛人騎手とリンノ

レジエントが逃げるなか、マスターフェンサーは中団前目にポジションを確保。ライバルのロードレガリスがやや早めに仕掛けると、マスターフェンサーもスパートをかける。直線はマッチレースとなり、見どころ十分の一戦となつた。

翌年に金沢JBCを控えた中で、勢いがつくような勝負になつたと思う。

マスターフェンサーはその後、交流重賞での勝ち星を二つ追加して引退。種牡馬として第二の馬生を開始しているらしい。

さて、マスターフェンサーの母は、セクシーザムライという牝馬。よく考えると、マスターフェンサーという馬名は「劍豪」という意味を持つが、なるほど、母名に由来する馬名だつたようだ。こちらも脳内ではしばらくの間、リンクすることがなかつた。お恥ずかしい……。

白山にも劍豪がいたのではないかと調べてみると、戦国時代に活躍した草深甚四郎という人物がいたらしい。こちらも、地元・金沢の人たちにとつてはお馴染みの名前なのだろうか。

JR松任駅から車で十分のところ、に彼のお墓があるらしい。本場の「かた豆腐」を食べに行きつつ、手を合わせにいつてみたい。



マスターフェンサー



▼ウマフリとは?

『競馬の楽しさを、全ての人へ』をモットーに多彩な執筆陣が様々なブログを上げていているインターネット上のフリーペーパーです。

掲載されているブログには中央や地方、海外の競馬情報はもちろん、競馬場グルメ、馬やそれに関わる人々にまつわる話題のほか、アートなどの馬事文化、イベントレポートなどなど。おおよそ馬に関わる事なら何でもアリの、さまざまな内容が揃っています。

公式ツイッターでは最新の話題はもちろん、サイトに上げるまでも無い些細な話題から、時には日本酒情報が馬の記事以上(?)に充実する事もあります。

競馬初心者もベテランも読みごたえのある記事が揃うウマフリ。一度「ウマフリ」で検索して覗いてみてはいかがでしょう。もしかしたら覗いたが最後、夢中になつて時間を大量に奪われる事になるかもしれませんけどね!?

■ウマフリ公式サイト

<https://www.uma-furi.com/>

■ウマフリ公式ツイッター

@Uma_Free